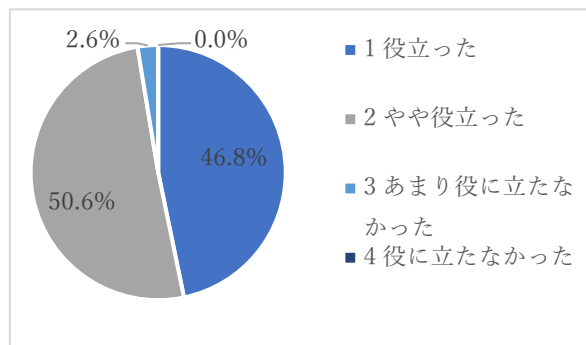
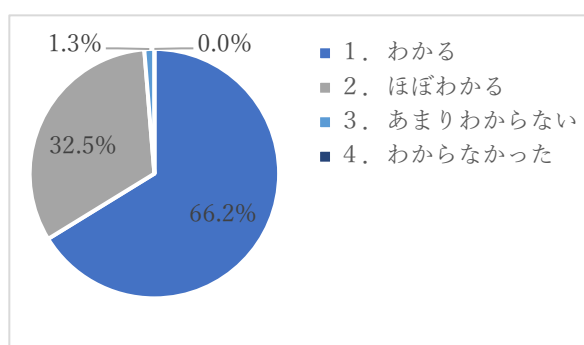


## 12月17日 visionary walker 育成事業講演会

|   |       |  |
|---|-------|--|
| 1 | 日時    | 令和4年12月17日   |
| 2 | 場所・時間 | 静岡県立浜松南高等学校 視聴覚室 10:00~13:00                       |
| 3 | 対象者   | 第1学年、2学年   |
| 4 | 講師    | 横浜国立大学大学院工学研究院 システム創生部門<br>准教授 加藤 龍 様              |
| 5 | 研修の目標 | 身体機能の代替や拡張に関する工学的なアプローチを学び、医療、福祉と工学の関わりに関する知識を深める。 |
| 6 | 題名    | 「ヒトに適応する身体機械とは何か？」                                 |
| 7 | 事後調査  |  |

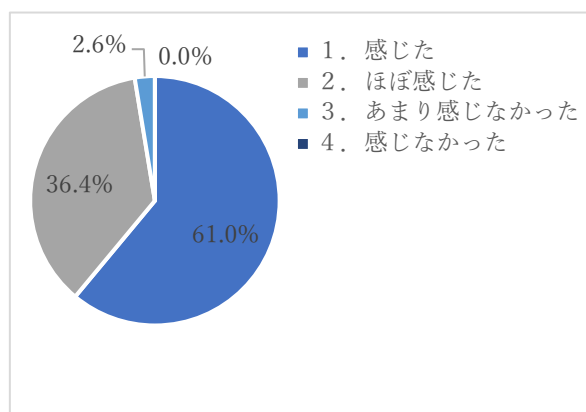
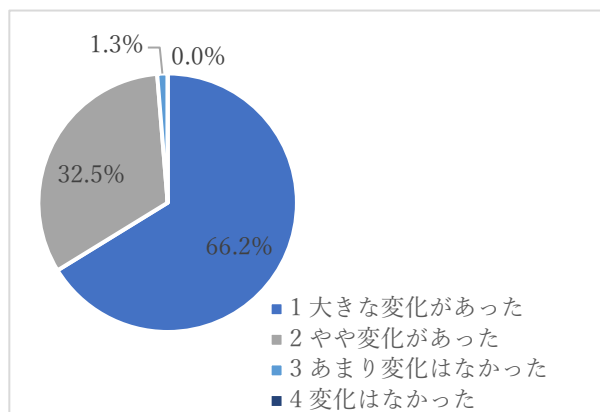
講演の内容の難易度について、どう感じましたか。

人とロボットの融合について、考え方に変化がありましたか。



ヒトに適応する身体機械に関して、理解を深めることにつながりましたか。

講演は、何らかの形で、志を育てる糧になると感じましたか。



☆講演内容について、受講した生徒約97.4%の生徒が、人とロボットの融合について、考え方に変化があったとの回答があり、大変有効性の高い講演であった。

### ○生徒の記述意見

- ・サイボーグが人間にとって大きな影響を与えていることがよく分かった。
- ・ロボットは身近にいるが、研究によって開発されたものは基本的に社会に出回らない。だがその研究やそれによって生み出されたロボットは誰かの役に立っていると思うと応援したくなる。
- ・機械化が進んでいることを色々な場面で知ってきましたが、機械に頼りすぎることは良くないと思っていました。ですが今回の話をきいて義手や義足のような人の生活を支える機械はもっと発展し増えていくべきだと思いました。また同じ義手でも、モーターのものとワイヤーのもので課題が異なっていて、レベルの高い研究を実感することができました。

- ・ 欠損した部位の補助で終わるのではなく、第三の手という考えが、終わりが無い理化学を表現していると思った
- ・ 今までテレビでしか見たことのない研究を実際に間近で見ることができ、研究や開発などを通じた医療の関わり方もあると気づくことができた。